

ABC 検診のおすすめ

胃の健康度を血液検査でチェックしてみませんか

胃がんの発生にピロリ菌感染の影響があります。

1994年に国際がん研究機関(IARC、WHO)はピロリ菌が胃がんの原因であると認定しました。さらに、2014年の勧告では、ピロリ菌の除菌が胃がんの予防になること、そして血清ペプシノーゲンが胃がんのリスクの指標となると認められました。

ピロリ菌抗体検査 (HP抗体検査)


血中の抗体価を調べ
ピロリ菌の感染診断を
おこなう検査。



ペプシノーゲン法 (PG法)

胃がんのリスクとなる
萎縮性胃炎を同定す
る検査。

ABC検診は、胃がんの早期発見につながります。 予防医療としてのがん対策が推進されています。

	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌抗体検査 (HP抗体検査)	—	+	+	—
ペプシノーゲン法 (PG法)	—	—	+	+
胃がん発生の 危険度	低  高			

ピロリ菌とは？

ヒトの胃粘膜に棲み、胃の炎症を起こす菌です。通常、胃の中は強い酸性を保ち菌は棲めませんが、ピロリ菌は特殊な酵素(ウレアーゼ)によってアンモニアを産生し胃酸を中和することで、強い酸性の胃の中でも生息が可能です。

ペプシノーゲンとは？

胃粘膜の炎症と萎縮の状態を反映します。ほとんどが胃内に分泌されますが、1%が血中に漏れ出るため、血液検査で萎縮性胃炎を同定することができます。

※ABC 検診(胃がんリスク分類)は胃がんを診断する検診ではありません。

ABC 検診は現在から将来の胃がんリスクを評価する検診であり、ABC 検診で胃がんが見つかるわけではありません。胃がん発見のためには、胃カメラによる二次精密検査が必要です。